

私 は大学で建築構造を専門に活動している。そこで、研究を通じて感じる学生のこと、学生の卒業後のことを中心に書かせていただきたい。

私の研究室では、「振動制御技術を用いてより高性能な建築物を提案しよう」という共通の目標を持って、卒論生・大学院生が活動している。そのとき、個々の学生が努力して優れた成果を達成していく様子を見ることが最大の楽しみである。どのような学生がより大きな達成感を持って学業を終えていくのかと考えると、一つには基礎学力が重要だと思われる。自分が提案する振動制御構造物の制御方法を考え、モデル化し運動方程式を立て、それを解く必要があるが、それにあまり苦勞せずに取り組める基礎学力があると、より多様な発想を試すことが可能になる。それには建築学科で提供している科目だけでなく、数学や物理といった基礎科目も重要な要素になっている。

さらに楽しみなのは、学生が巣立って就職先で活躍することである。私の研究室では、建築構造設計を希望する学生が比較的多く、建設会社、住宅メーカー、設計事務所などで活躍している。これらの企業の中では当然、キャリアに応じたより高度な業務に取り組まなければならないだろう。そのとき企業の先輩諸氏は、若手技術者が未経験の課題に取り組む際に、何が重要だとお考えだろうか。経験の他には応用力だ

各 人 各 説

大学と実業界と学会

神戸大学大学院工学研究科 教授

藤谷秀雄

Hideo Fujitani



ろうか、それとも基礎学力だろうか。あるいは本人の未知のものに取り組む姿勢だろうか。おそらく必要になるのは基礎学力と本人の姿勢ではないかと想像する。であるから大学では、基礎学力を蓄積しながら新たな課題に取り組む姿勢を育てたいと思っている。またその成果を発表する経験も重要で、学会などで研究発表を行わせている。できれば就職先でも、開発した新技術を学会で発表できる機会に恵まれ、継続して学術的な研鑽を積むことができればと願っている。同時にそのような人材が企業の次世代の戦力になるものと考えている。

また現在、私は一般社団法人日本建築学会の理事の立場でもある。本会は二〇一四年十一月に、一般社団法人日本建設業連合会建築設計委員会に「日本建築学会へのご支援のお願い」として、法人としても、個々の社員の方々にも日本建築学会の会員になっていただけるとお願い申し上げている。そのためには日本建築学会の側にも魅力が必要である。私は、日本建築学会がより付加価値の高い建築物を提供できるための会員相互の研鑽の場になること、また建築主に対して、付加価値の高い建築物を所有する意義を理解してもらえような情報発信をすることが重要ではないかと考える。

この学会活動は大学関係者だけでは到底不可能で、企業の設計・技術・生産の各部門の方々との協働によって実現できると期待している。